

今月のフレンズ

株式会社岩田三宝製作所
代表取締役社長
伊藤 正廣さん
専務取締役
岩田 康行さん



神事には欠かせない三方を、江戸時代中期から作り続けている株式会社岩田三宝製作所。会社の成長を支えるモノづくりへのこだわりや、今後を見据えた新たな挑戦などを、代表取締役社長の伊藤さんと専務取締役の岩田さんに伺いました。

三方づくりに最適だった 名古屋の土地で創業

三方は、神道の神事において使われる、神饌を載せるための台です。その登場は弥生時代まで遡る歴史ある道具で、高貴な人物に物を献上する際にも使用されていました。当社が三方づくりを始めたのは、江戸時代中期。当地では昔から、木材の加工や檜材を用いたモノづくりが盛んで、三方に適した檜材が豊富です。なかでも木曾谷国有林で産する天然木曾檜は、木目が詰まり白くて美しい表情を持っているため、名古屋は三方づくりにもってこいの場所だったといえます。

ロコミで広まった モノづくりへのこだわりとその品質

現在、三方専門メーカーは五社程になりましたが、約300年続く当社のモノづくりにおける強みは、大きく2つあります。まずは、代々受け継がれてきた「加工技術」。なかでも、三方づくりの最大の特徴でもある、木材に切り溝を入れて蒸らしながら曲げる「引き曲げ」と呼ばれる加工は、職人の手作業でしかできない高度な技術です。先々の時代に生産量を増やすべく機械化を進めましたが、高品質にこだわるために、各工程の仕上げは必ず手作業で行なっています。

もうひとつは「商品に込める思い」。使用される方のことまで考えた三方づくりを心がけています。また、原材料の調達を自分たちで行なうことで、良質な材料を低価格で仕入れることが可能です。選りすぐりの材料を用いて、木材の美しさを最

一つひとつ丁寧に…、変わらないモノづくりへの思い

- 話のポイント ▶ ロコミで広まった、三方づくりへのこだわり
- ▶ 伝統技術を活用した、新たな分野の開拓

大限引き出せるように加工することが、私たちの使命だと考えています。三方は神事に使うため、品質が重要視される商品です。一つひとつ丁寧に仕上げるのが問屋関係を中心にロコミで広がり、皇室の儀式において当社の長折敷が使用されるなど、全国的に注目されるようになりました。昨年1月には国の伝統工芸品として認可を受け、モノづくりへのこだわりが全国的にも評価されています。長年にわたって品質にこだわり、モノづくりと真摯に向き合い続けた結果だと感じています。

受け継がれる伝統技術を活用した
新たな分野の開拓は続く

ここ数年は「三方の伝統技術を活かしたモノづくり」をコンセプトに、神具以外の新商品開発を進めています。最近では、木曾檜を柱目挽きした一枚板を使用し、曲げ加工や仕上げの美しさなど、伝統技術を最大限に活かした「SANBOUポトルクーラー」を開発しました。名商のサポートを受けて東京インターナショナル・ギフトショーなどの展示会にも積極的に参加し、たくさんの方から好評をいただいています。

今後は、他の業界やユーザーの声を取り入れながら、テーブルウェアを中心に新商品の開発を進めるとともに、他社の製品製作のお手伝いも進めていきたいと考えています。新商品がブランドとして確立するなかで、結果としてより多くの方に三方を知っていただけるようになれば嬉しいですね。



▲ SANBOUポトルクーラーとお盆、鍋敷き、コースター。新たな分野に挑戦するため当社の技術を活かして、さまざまなテーブルウェアを開発中です。



▲ 今年2月に行なわれた「東京インターナショナル・ギフトショー」の様子。たくさんの方に当社の技術を知っていただける貴重な機会でした。



▲ お客さまのご要望に対応するため、三方のサイズ・材質別に幅広く取り揃えています。品質が評価され、全国の関係各社・宮内庁からご注文をいただいています。



今月の表紙説明

数多くの三方を生み出してきた加工場での一枚。ここでは主に手作業で、曲げ加工や仕上げ加工、組み立てなどを行なっています。お客さまのご要望に合わせて、大きさやデザインなどを丁寧に作り込んでいきます。

Company Data

【会社概要】

- ▶ 創業 江戸時代中期(法人設立 1972年)
- ▶ 所在地 名古屋市熱田区中田町6-9
- ▶ TEL 052-671-1720
- ▶ URL <http://www.iwata-ss.co.jp/>
- ▶ 事業内容 三方、供筒、華束、八足台の製造・卸し